

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査 鴻巣市の結果の概要【小学校】

## 1 鴻巣市と埼玉県・全国との正答率比較

	国 語	算 数
鴻巣市	68	62
埼玉県	68	62
全 国	67.2	62.5

## 2 小学校各教科の領域・区分等について

国語	「話すこと・聞くこと」は、全国・県平均を上回っています。 「書くこと」は、全国・県平均を下回っています。 「読むこと」は、全国・県平均を下回っています。 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国・県平均を上回っています。 「情報の扱い方に関する事項」は、全国・県平均を下回っています。
算数	「数と計算」は、全国平均を下回り、県平均と同値です。 「図形」は、全国・県平均を下回っています。 「変化と関係」は、全国・県平均を下回っています。 「データの活用」は、全国・県平均を上回っています。

## 3 質問紙調査から（一部抜粋）当てはまる・どちらかといえば当てはまるを選んだ児童の割合

質問事項	鴻巣市	埼玉県	(差)	全 国	(差)
学校に行くのは楽しいと思いますか	91.3	86.7	+4.6	85.3	+6.0
将来の夢や目標を持っていますか	84.3	82.7	+1.6	81.5	+2.8
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習を含む)	79.7	73.4	+6.3	70.7	9.0
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	88.4	85.9	+2.5	82.9	+5.5
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	87.9	84.7	+3.2	81.8	+6.1
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	82.9	78.8	+4.1	76.5	+6.4
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	81.8	78.5	+3.3	76.8	5.0
国語の勉強は大切だと思いますか	95.5	95.1	+0.4	94.2	+1.3
算数の勉強は大切だと思いますか	96.2	94.7	+1.5	94.2	+2.0
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	87.2	87.4	-0.2	83.6	3.6

## 4 学習指導改善のための今後の方策

各学校の実情に応じて、以下の取組を推進してまいります。

### 【鴻巣市学習指導の重点】

- 適切な課題を設定し、児童生徒が見通しをもって学習するとともに、学んだことを自分の言葉で表現するなど、一人一人が学習の成果を振り返ることができる授業を展開していきます。
- 学習課題について一人一人が考える時間を十分に確保し、自分の考えをもって他者と交流することで、考えを深めていくことができる授業を展開していきます。
- 学んだことが確実に定着するよう、授業の中でまとめの練習問題に取り組むとともに、新たな課題を見付けたり、日常生活に活用したりできる授業を展開していきます。

### 【各教科における指導方法の改善】＜国語＞

#### ○〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕

＜重点：送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく書く＞

- ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けたり、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いたりすることができるようにすることが重要です。送り仮名の付け方について、個々の具体的な語の送り仮名の付け方だけでなく、活用語尾を送るという送り仮名の原則的な付け方についても理解を促し、活用についての意識をもたせるように指導していきます。

#### ○〔情報の扱い方に関する事項〕

＜重点：原因と結果など情報と情報との関係について理解する＞

- ・情報と情報との関係を理解するためには、様々な情報の中から原因と結果などの関係を見いだし、結び付けて捉えることができるようにすることが重要です。第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(1)「イ筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。」などとの関連を図り、指導の効果を高められるよう指導していきます。

#### ○〔話すこと・聞くこと〕

＜重点：必要なことを質問しながら聞く＞

- ・インタビューなどをする際に、どのような目的で聞くのか、自分が聞きたいことは何かなどをよく確かめて聞くことができるようにすることが大切です。第5学年及び第6学年では、自分はどういう情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにどういった情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にして聞き、話の内容を捉えることが求められます。相手の話の中に、目的に関わる言葉が出てきたときには、その言葉を取り上げて詳しく聞くなど、分からない点や確かめたい点などを質問するという視点を明確にして指導していきます。

#### ○〔書くこと〕

＜重点：図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する＞

- ・伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切です。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導していくこと、また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直していくことを、指導していきます。

#### ○〔読むこと〕

＜重点：目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける＞

- ・読む目的に応じて、複数の資料を読みながら、必要な情報を見付け、その関係を考えられるようにすることが大切です。その際、文章や図表などで使われている語句で、繰り返し使われている語句や、似たような意味をもつ語句に着目するなどして、読むことができるように指導していきます。

### 【各教科における指導方法の改善】＜算数＞

#### ○〔数と計算〕

＜重点：数量の関係を捉え、問題の解決に式を用いることができるようにする＞

- ・日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、式を用いることができるよ

うにすることが重要です。例示や友達の考え方を解釈し、どのように式を用いたのかを説明する活動を取り入れる等、指導していきます。

#### ○〔図形〕

＜重点：図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考察することができるようにする＞

- ・図形を構成する要素や構成する要素の関係に着目して図形を観察したり、操作したりする活動を通して、図形の意味や性質を見いだしたり、それらの操作について、図形の意味や性質を基に考えたりできるようにすることが大切です。紙を折ったり切ったりしてできた図形や、合同な図形を写し取ってかいた対称な図形、図形を敷き詰めてできた模様などを観察することで図形の意味や性質を見いだしたり、既習の図形の意味や性質と自分が行った操作を結び付けてできた図形を弁別したりする活動を取り入れる等、指導していきます。

#### ○〔変化と関係〕

＜重点：伴って変わる二つの数量について、変化の規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにする＞

- ・伴って変わる二つの数量について、答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、求め方について表などを用いて変化の規則性を基に説明できるようにすることが大切です。さらに、なぜそのような計算で求めることができるかについて振り返り、比例の関係にあることに基づいて解決できたことを確認できるよう、指導していきます。

#### ○〔データの活用〕

＜重点：複数のグラフを比べ、見いだしたことを表現できるようにする＞

- ・目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要です。グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かりやすく説明する活動を取り入れる等、指導していきます。